

わが家の連絡先 塩谷町の市外局番...0287

氏名	電話番号・メールアドレス	会社・学校	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

<p>家族で決めた集合場所</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>家族で決めた連絡方法</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--	--

塩谷町役場 総務課	45-1111	塩谷消防署	45-0090
塩谷町生涯学習センター	48-7503	矢板警察署	43-0110
玉生コミュニティセンター	45-0050	矢板警察署 玉生駐在所	45-0020
船生コミュニティセンター	41-6102	矢板警察署 船生第一駐在所	47-0034
大宮コミュニティセンター	46-0116	矢板警察署 船生第二駐在所	47-0149
塩谷町社会福祉協議会	45-0133	矢板警察署 大宮駐在所	46-0034

あなたの無事を伝えましょう 体験利用日:「毎月1日及び15日」、「正月三が日」、「防災週間」、「防災とボランティア週間」



防災 ハザードマップ

大切な命を守るために
防災の再確認



塩谷町



もくじ・ハザードマップの活用方法	1	詳細図1~10	9~28
知ろう!5段階の警戒レベル	2	土砂災害について	29
とるべき行動を確認しよう	3	風水害対策、竜巻・雷に対する情報	30
災害時の情報伝達	4	地震対策	31
指定避難所一覧	5	揺れやすさマップ	32
非常時持出品・備蓄品の準備	6	自主防災組織で地域を守る	33
ハザードマップの見方	7	家の中 外の安全対策	34
全体図	8	わが家の「防災・緊急情報」メモ	裏表紙

【本書の特徴】

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。
 予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。また、本書の特徴として、災害時に持ち運びができるように冊子型としています。ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

ハザードマップの活用方法について

①住んでいる場所と予想される浸水の深さを地図上で確認しましょう

このハザードマップには、予想される浸水の範囲と深さがランク別に色分けされています。自分の住んでいる場所は浸水の危険があるのか、予想される浸水の深さはどれくらいになるのかを確認しましょう。

ただし、実際の浸水は、予想通りにはならないことがあります。

②避難場所を確認しましょう

このハザードマップ 5 ページの避難所一覧で、自分の住んでいる地区で避難場所に指定されているのはどこかを確認しましょう。そして、地図上でその避難場所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。



③避難経路を考えてみましょう

このハザードマップで自分が住んでいる場所から避難場所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。

地図上での確認が済んだら、実際に避難場所まで歩いてみましょう。

安全で歩きやすい道を選び、避難場所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

このハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。

安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



STEP 1 「5段階の警戒レベル」を知っておきましょう!

警戒レベル	取るべき行動	避難情報など	警戒レベル相当情報(例)
1	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁発表)	住民が自主的に避難行動を取るため参考とする情報です (国土交通省・気象庁・県発表)
2	避難行動を確認	大雨・洪水注意報等 (気象庁発表)	
3	危険な場所にいる場合 避難に時間を要する方は 避難を開始! <small>※高齢の方、障害のある方、乳幼児などとその支援者</small>	避難準備・高齢者等避難開始 (塩谷町発令)	<ul style="list-style-type: none"> 大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報 など
4	危険な場所から 全員避難!!	危険な場所にいる場合 全員速やかに避難!! (塩谷町発令)	<ul style="list-style-type: none"> 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
5	命を守る最善の行動 すでに災害が発生している状況です	災害発生情報 (塩谷町発令)	<ul style="list-style-type: none"> 氾濫発生情報 大雨特別警報 など

レベル4で危険な場所から全員避難完了!

必ずこの順番で発表・発令されるとは限りません。これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じたら避難を開始してください。日頃から、気象庁の発表する情報を確認しておきましょう。

- ❗ **避難**とは**難**を**避**けることです。
安全な場所にいる人は避難場所に行く必要はありません。
- ❗ 安全な場所にある親戚・知人宅なども避難先として検討してください。感染症拡大防止の観点からも重要です。
- ❗ 危険な状況になる前に安全な場所へ移動してください。

STEP2 自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう!

地図上で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけましょう。

YES

地図上で家がある場所に色が塗られていますか?

NO

色が塗られていなくても、低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、塩谷町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

YES

災害の危険があるので、原則として*、自宅の外に避難が必要です。

例外

※浸水の危険があっても、以下①②の場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
 ①災害が発生するおそれの高い区域の外側である
 ②浸水する深さよりも高いところにいる

土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンションなどの上層階に住んでいる場合は、自宅に留まり安全を確保することも可能です。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

YES

警戒レベル3または4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

NO

警戒レベル3または4が出たら、塩谷町が開設した避難場所に避難しましょう

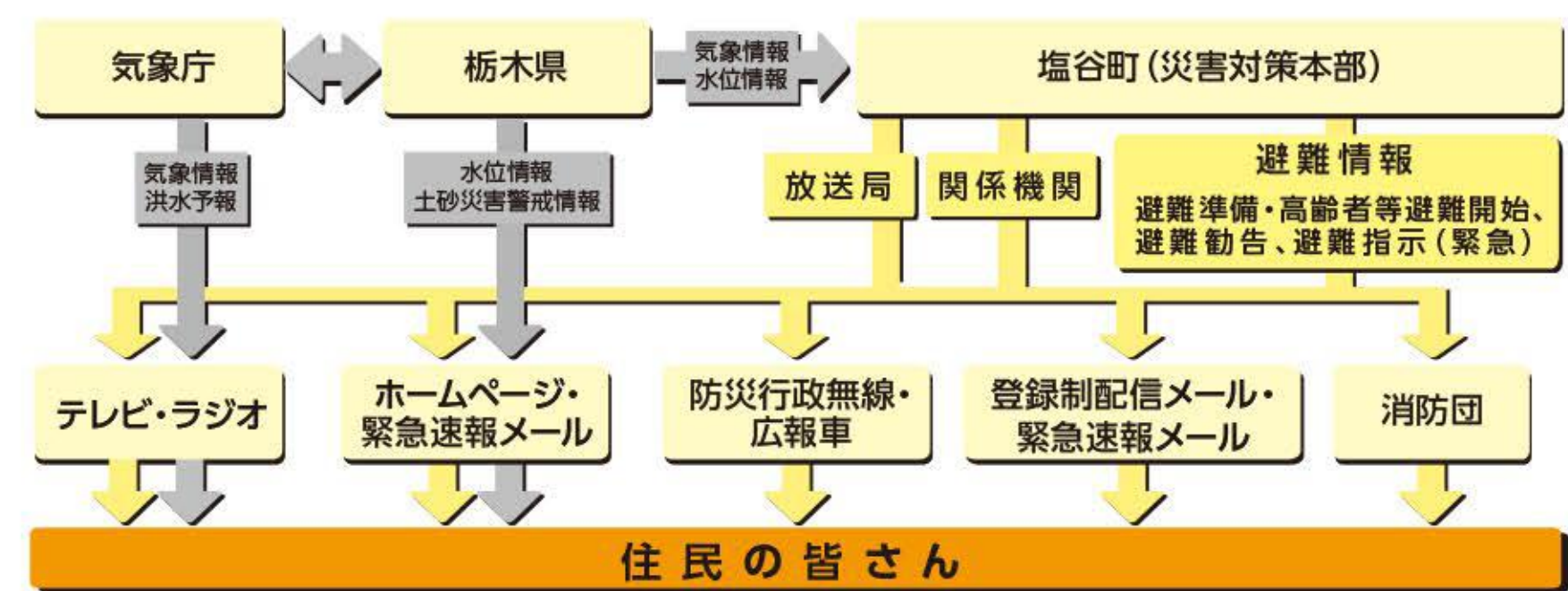
いずれの場合も、安全な避難経路を普段から確認しておきましょう!

避難する場合は以下のポイントを確認し安全に避難しましょう!

- ❗ 避難に時間がかかる方とその支援をする方は「警戒レベル3」
その他の方は「警戒レベル4」で避難を開始してください。
- ❗ 警戒レベル4には「避難勧告」と「避難指示(緊急)」がありますが、いずれにしても警戒レベル4で避難しましょう。
- ❗ 豪雨時の屋外避難は危険です。車での移動は控えましょう。

避難する際は、近所の方にも声を掛け、互いに助け合しましょう

住民への伝達方法



塩谷町防災行政情報配信サービスをご利用ください

町からの防災情報は防災行政無線の他、下記の方法で発信します。

【町から発信される防災情報について】

- (1) 地震、大雨、洪水、土砂災害などの気象情報や警報
- (2) 避難勧告や避難指示などの避難情報
- (3) ゲリラ・特殊部隊攻撃、航空攻撃、弾道ミサイル、大規模テロなどの国民保護情報

【防災行政無線の内容を電話で確認】

防災無線の内容は下記の電話番号から確認することもできます。
0287-45-2655
 (通話料金は個人負担となります)

【登録方法】

【スマートフォンでの受信方法】

(令和2年9月より運用開始予定)
 Android・iOS を搭載した携帯会社のスマートフォンをお持ちの方には、専用アプリ@infoCanal で防災情報を提供します。



【フィーチャーフォン(ガラケー)での受信方法】

登録制配信メールサービス

上記二次元コードを読み取って、簡単な手続き後に登録となります。
 ※1. ドメイン指定・解除などは、お持ちの携帯電話の各キャリアへお問い合わせください。
 ※2. 二次元コードが読み取りできない場合は、[bousai.shiyoa-town@raidan.ktaiwork.jp]のアドレスを直接入力して、登録手続きを行ってください。
 ※3. 受信者側でデータ通信料を負担していただきます。

【音声専用別受信機】

(令和2年9月より運用開始予定)
 音声で情報を配信します



情報を集めましょう

テレビで情報確認

テレビのdボタンの使い方
 災害情報が確認できます
 ①リモコンのdボタンを押す
 ②「防災・生活情報」を選択する

インターネットで調べる

- 栃木県 リアルタイム雨量
河川水位観測情報
<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/>
- 気象庁
気象注意報・警報・特別警報、短時間大雨予報、洪水警報の危険度分布、台風情報、地震情報など
- 川の防災情報
カメラ画像、河川の観測水位、水位予測など
- 防災情報提供センター
リアルタイム雨量、リアルタイムレーダーなど

指定避難所

番号	名称	所在地	大雨時優先開設	地図座標		
1	玉生小学校	玉生395	○	6-E-3	7-B-3	-
2	日々輝学園高等学校開桜館	大宮2579-1		9-D-1	-	-
3	塩谷中学校	飯岡1248	○	6-D-4	7-A-4	-
4	星ふる学校くまの木	熊ノ木802		4-D-4	-	-
5	自然休養村センター	熊ノ木987-2		6-E-2	7-B-2	-
6	認定しおやこども園	玉生1057-83		6-E-2	7-B-2	-
7	尚仁沢はーとらんど	上寺島1618-4	○	2-B-4	-	-
8	船生小学校	船生3660	○	5-E-3	8-C-1	-
9	生涯学習センター	船生989-1	○	5-F-3	6-A-3	8-D-1
10	ふにゅう保育園	船生3600-1		5-D-4	8-C-1	-
11	旧船生西小学校	船生6000	○	5-C-3	8-A-1	-
12	大宮小学校	大宮2166	○	9-D-2	-	-
13	旧大久保小学校	大久保1401	○	9-F-3	10-C-3	-
14	日々輝学園高等学校	大宮2475-1		9-D-2	-	-
15	道の駅 湧水の郷しおや	船生3733-1		5-D-4	8-C-2	-
16	大宮コミュニティセンター	大宮1028-2	○	9-D-2	-	-
17	おおみや保育園	大宮2108-1		9-D-2	-	-
18	田所体育館	田所973	○	7-D-4	-	-

関連機関

名称	所在地	電話番号	地図座標	
塩谷町役場	玉生741	45-1111	6-D-3	7-B-3
矢板警察署	矢板市中2001-1	43-0110	-	-
玉生駐在所	玉生582-1	45-0020	6-D-3	7-B-3
船生第一駐在所	船生3634-2	47-0034	5-E-3	8-C-1
船生第二駐在所	船生6082-81	47-0149	5-C-3	8-A-1
大宮駐在所	大宮1364	46-0034	9-D-2	-
塩谷広域行政組合消防本部	矢板市富田94-1	44-2513	-	-
塩谷消防署	道下1015-1	45-0090	6-E-3	7-B-3

指定避難所について

- 災害が発生した場合、または発生する恐れがある場合に避難する場所です。このハザードマップで、洪水・地震・その他の災害などにおける自宅周辺や勤務地の指定避難所の確認などをしてください。
- 施設や場所によっては浸水が想定される地域内にあるものがあります。避難する場合は現地の状況を確認し避難をしてください。

避難先では感染症予防に努めましょう

- 手洗い、うがいをこまめに行う
 - 咳エチケットの徹底
 - 喚起の実施「3密」の回避
 - 避難所に避難した場合で、体調がすぐれないときは、運営を行っている行政職員などにすぐ知らせる
- ※避難所以外の安全な場所（親戚・知人宅など）への避難は「3密」を防ぎ、感染予防の観点からも重要です。



いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- 救急セット
- 常備薬(風邪薬等)
- マスク
- 手指の消毒液
- 体温計

非常食品

火を通さなくて食べられるもの、食器など



- 飲料水
- 乾パン
- 缶詰
- アルファ米
- 飴・チョコなど

ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

その他



- 現金(小銭多めに)
 - ホイッスル(助けを呼ぶため)
 - 着替え
 - ウェットティッシュ
 - 歯ブラシ
 - 携帯電話の充電器
 - タオル
 - ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
 - 割りばし
 - 紙皿・紙コップ
 - 携帯トイレ
 - 新聞紙
 - ポリ袋
- 各家庭に必要なもの
- 赤ちゃん用品(ミルク、離乳食、おむつ等)
 - 入れ歯や補聴器
 - 生理用品
 - リュックサック
 - コンタクトレンズ、めがね

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンクなど

非常食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具など
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- パケツ・各種アウトドア用品など
- 歯みがきセット・ひげそりなど

避難するときはこんな恰好で



帰宅困難に備えよう

屋間、人口が多い都市部で大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「帰宅困難者」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備をしておきましょう。

防災グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(帽子)、スニーカー、携帯食料、懐中電灯、革手袋、地図、寒暖対策用品など

帰宅地図を用意する

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合もあるので、複数の帰宅ルートを決めておくことがよいでしょう。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親類とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- 災害時の安否確認の方法
- 家族の集合場所
- 徒歩帰宅する場合のルート



土砂災害(特別)警戒区域について

- 土砂災害(特別)警戒区域は、栃木県と国(国土交通省)で調査したデータ(急傾斜地・土石流)を基に掲載しています。
- 土砂災害(特別)警戒区域は、現地調査などにより把握されたものです。地図に表示されている箇所以外でも土砂災害が発生する可能性があります。



洪水浸水想定区域について

- この洪水浸水想定区域図は、鬼怒川の洪水予報区間について、水防法の規定などにより定められた想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。
- この洪水浸水想定区域は、現時点の鬼怒川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により鬼怒川がはん濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- このシミュレーションの実施にあたっては、**支川の決壊によるはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫等を考慮していません**ので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- なお、この洪水浸水想定区域は、鬼怒川のはん濫により生じる洪水浸水想定区域と想定される水深等を示した図であるため、隣接する河川のはん濫の影響が考えられる区域では、別途、当該河川の洪水浸水想定区域を参照する必要があります。

その他の掲載情報について

東荒川・西荒川・荒川について

- ダムの下流域にあたる、東荒川・西荒川・荒川については、異常洪水時防災操作により放流がおこなわれた場合の浸水想定図です。

降雨の設定方法

降雨外力(想定最大規模降雨)は「浸水想定(洪水・内水)の作成等のための想定最大外力設定法」(マニュアル)では、①想定最大規模降雨と②関係する降雨観測所で統計計算から求められる1,000年に1回発生する降雨の大きな方を用いる事とされている。降雨外力(想定最大規模降雨)は、マニュアルに基づき、流域面積(km²)-降雨量(mm)の関係から設定しました。

- ①降雨外力(想定最大規模): 664 mm / 24hr
- ②1/1000年確率規模降雨: 369 mm / 24hr

寺小路ため池について

- ため池が決壊してから1時間で広がる「浸水区域」を想定した図です。

STEP 1

ハザード情報の見方

要 必ず確認しよう!



水害 洪水浸水想定区域(浸水深)

4階	5~10m(3階床上浸水~4階軒下浸水)
3階	3~5m(2階床上~軒下浸水)
2階	0.5~3m(1階床上~軒下浸水)
1階	~0.5m未満(1階床下浸水)

凡例

土砂災害
土砂災害警戒区域:
土砂災害による被害のおそれがある区域
土砂災害特別警戒区域:
建造物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危険が生じるおそれがある区域

ハザードマップポータルサイト 検索

STEP 2

ハザード情報の見方

詳 もっと詳しく知ろう!

次の2つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

① 家屋倒壊等ははん濫想定区域に入っていないか



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

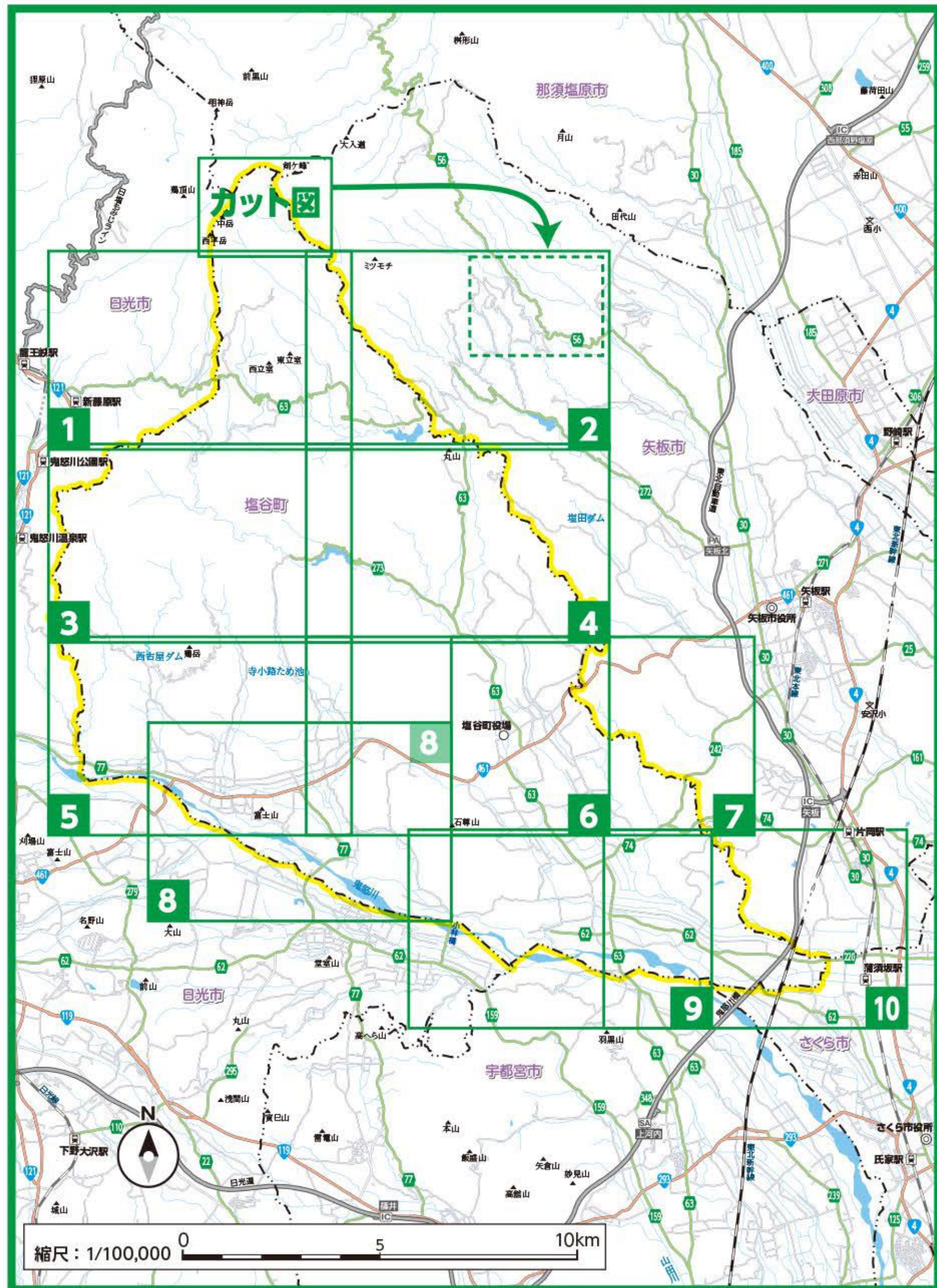
地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高いか

4階	5~10m(3階床上浸水~4階軒下浸水)
3階	3~5m(2階床上~軒下浸水)
2階	0.5~3m(1階床上~軒下浸水)
1階	~0.5m未満(1階床下浸水)

※①家屋倒壊などははん濫想定区域はハザードマップに記載がない場合がありますので、塩谷町へお問い合わせください。

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンションなどの上層階に住んでいる場合は、自宅に留まり安全確保をすることも可能です。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号平29情使、第444-1559号)」

凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深

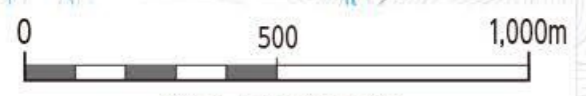
	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満
	家屋倒壊等氾濫想定区域

ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深

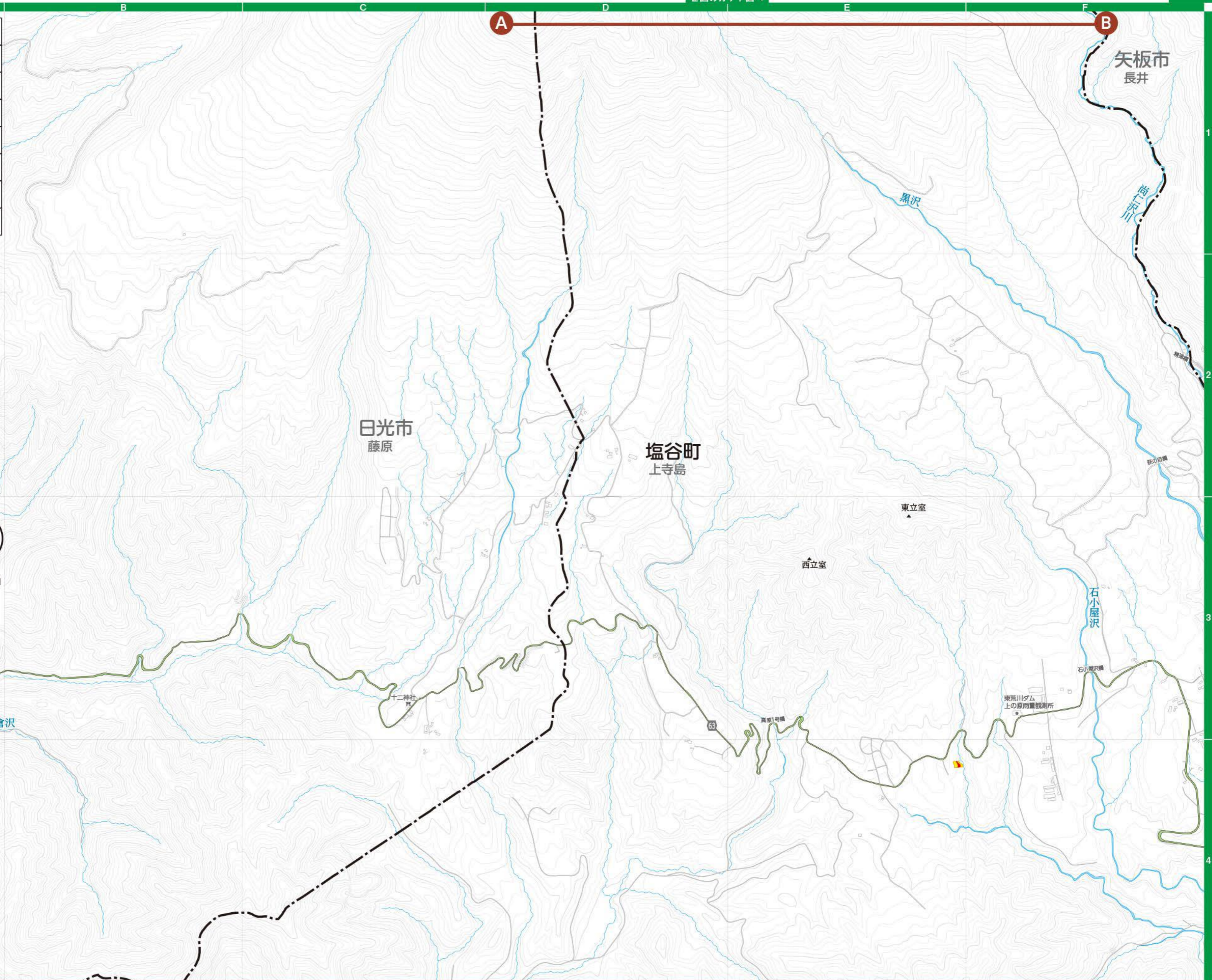
	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満

土砂災害警戒区域等

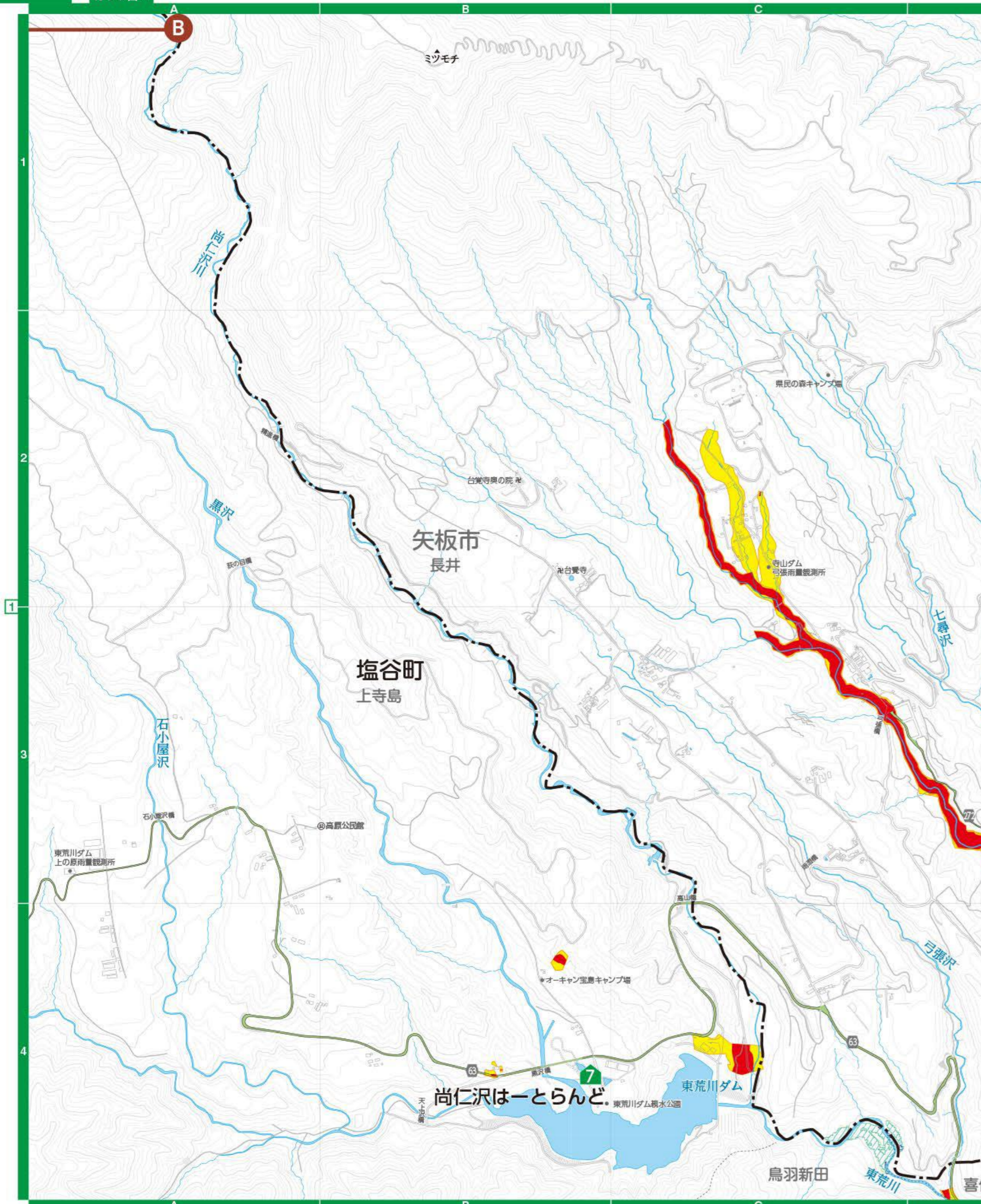
	土砂災害警戒区域
	土砂災害特別警戒区域



縮尺：1/15,000



カット図へ



カット図



縮尺：1/15,000

0 500 1,000m

凡例

地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

土砂災害警戒区域等

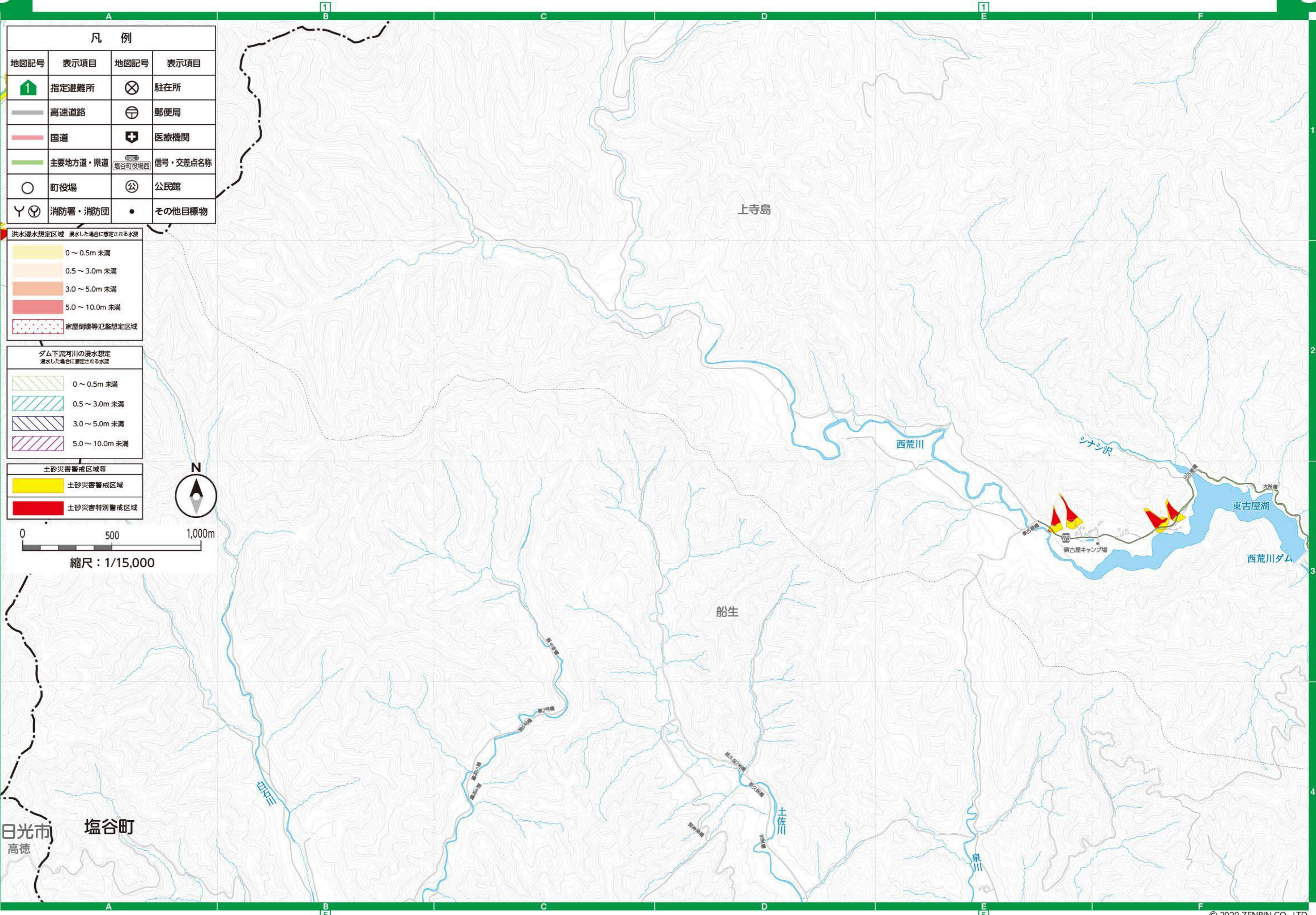
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深

- 0～0.5m 未満
- 0.5～3.0m 未満
- 3.0～5.0m 未満
- 5.0～10.0m 未満
- 家屋倒壊等氾濫想定区域

ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深

- 0～0.5m 未満
- 0.5～3.0m 未満
- 3.0～5.0m 未満
- 5.0～10.0m 未満



凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深

	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満
	家屋倒壊等氾濫想定区域

ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深

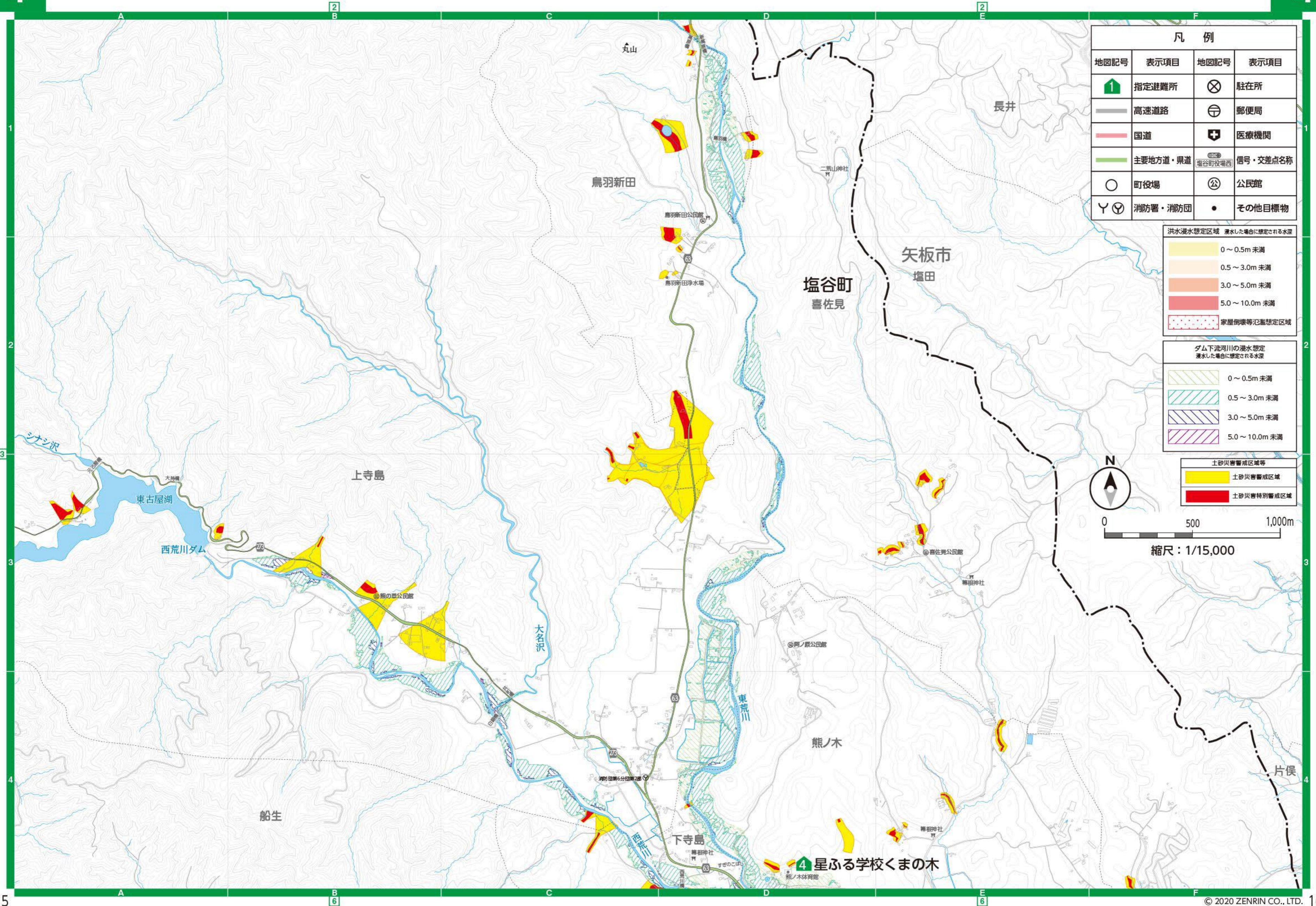
	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満

土砂災害警戒区域等

	土砂災害警戒区域
	土砂災害特別警戒区域



縮尺：1/15,000

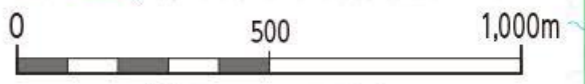


凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
↑	指定避難所	⊗	駐在所
—	高速道路	⊕	郵便局
—	国道	⊕	医療機関
—	主要地方道・県道	⊕	信号・交差点名称
○	町役場	⊕	公民館
⊕	消防署・消防団	●	その他目標物

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深	
0～0.5m 未満	0.5～3.0m 未満
3.0～5.0m 未満	5.0～10.0m 未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	

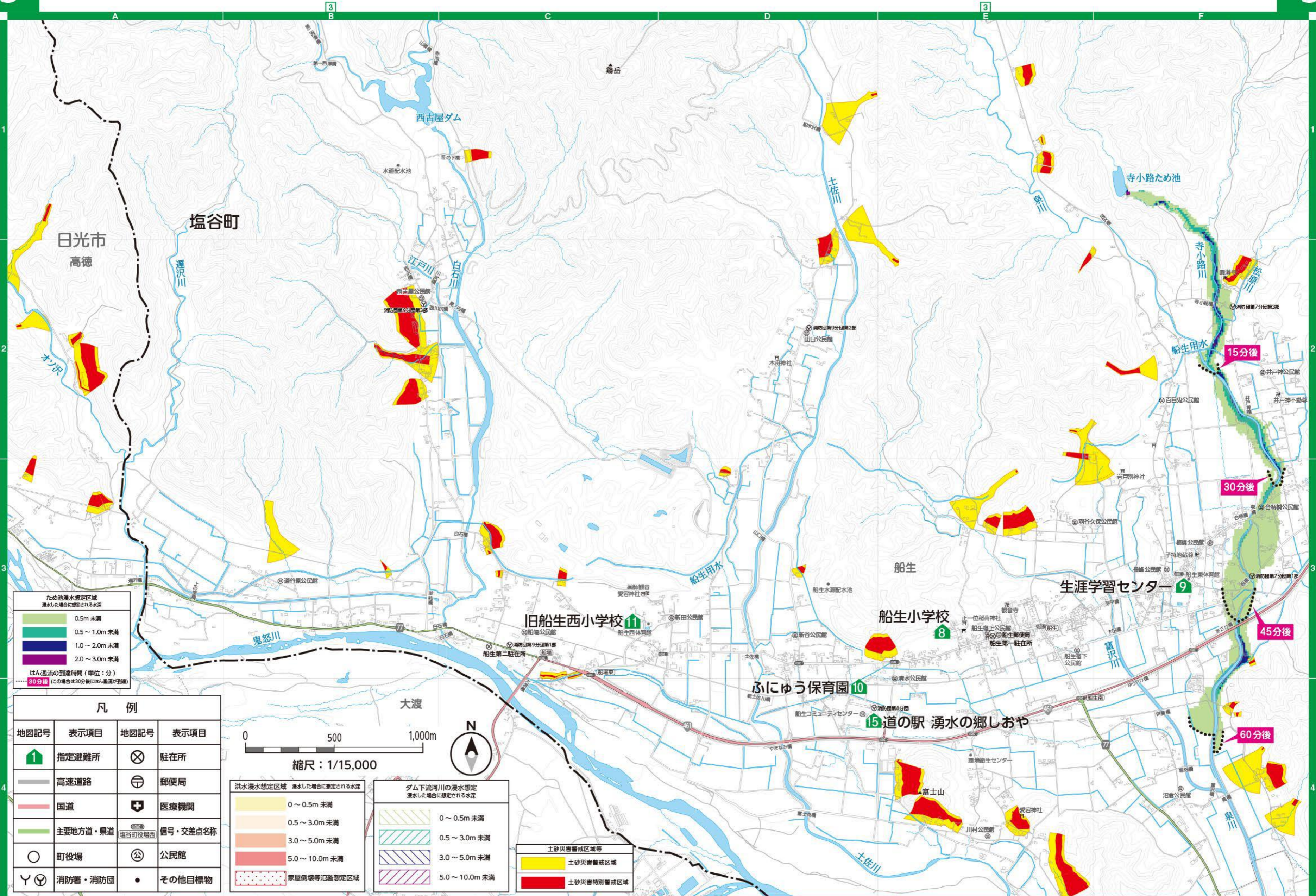
ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深	
0～0.5m 未満	0.5～3.0m 未満
3.0～5.0m 未満	5.0～10.0m 未満

土砂災害警戒区域等	
土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域



縮尺：1/15,000

4 星ふる学校くまの木



ため池浸水想定区域
浸水した場合に想定される水深

0.5m 未満
0.5～1.0m 未満
1.0～2.0m 未満
2.0～3.0m 未満

はん濫流の到達時間 (単位: 分)

30分後 (この場合は30分後にはん濫流が到来)

凡例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

縮尺: 1/15,000

0 500 1,000m

N

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深

0～0.5m 未満
0.5～3.0m 未満
3.0～5.0m 未満
5.0～10.0m 未満

ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深

0～0.5m 未満
0.5～3.0m 未満
3.0～5.0m 未満
5.0～10.0m 未満

土砂災害警戒区域等

土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

ため池浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深 0.5m 未満 0.5～1.0m 未満 1.0～2.0m 未満 2.0～3.0m 未満 はん濫流の到達時間(単位:分)30分後(この場合は30分後にははん濫流が到達)	洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深 0～0.5m 未満 0.5～3.0m 未満 3.0～5.0m 未満 5.0～10.0m 未満 家屋倒壊等氾濫想定区域	ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深 0～0.5m 未満 0.5～3.0m 未満 3.0～5.0m 未満 5.0～10.0m 未満
--	--	---

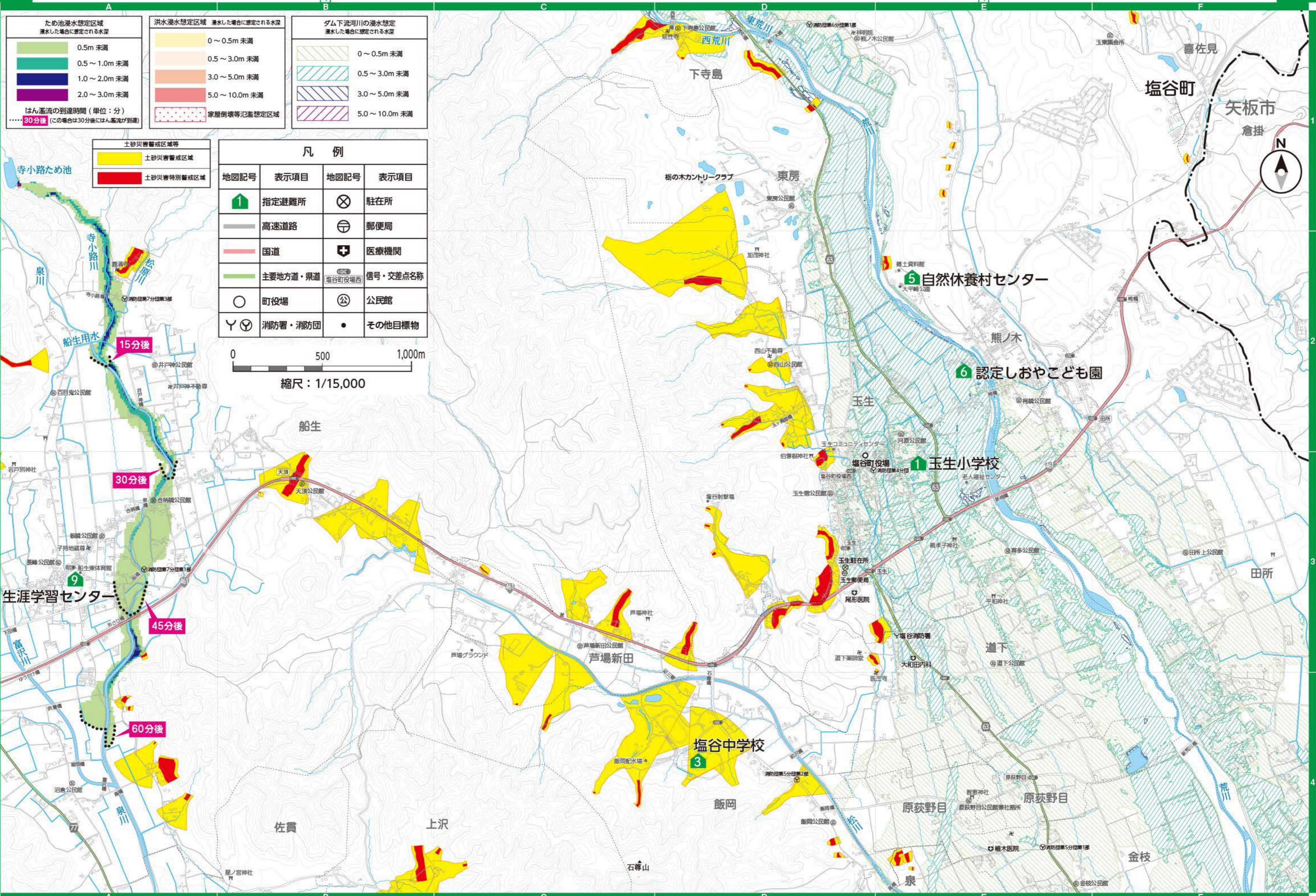
土砂災害警戒区域等

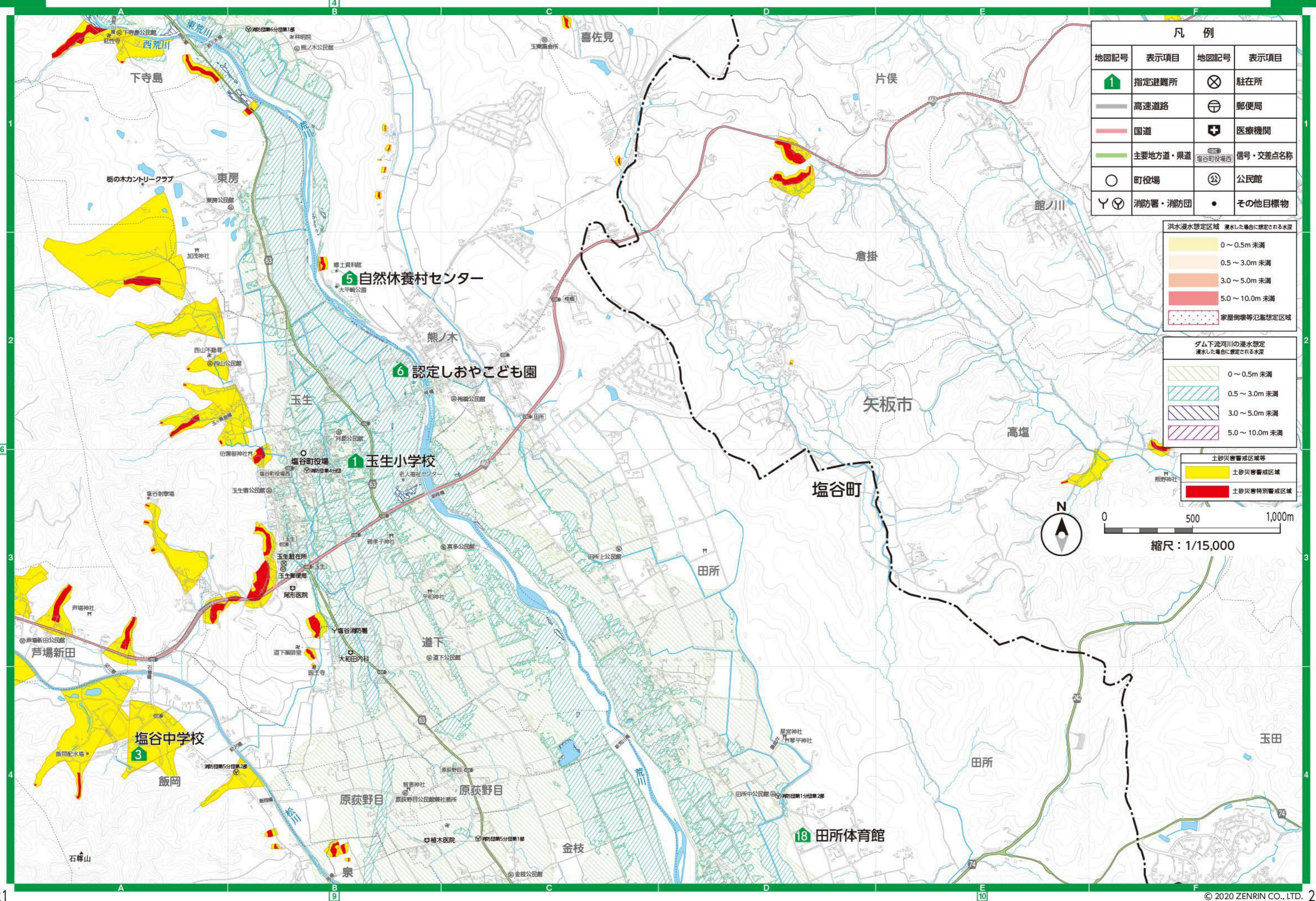
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

凡例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

縮尺: 1/15,000

0 500 1,000m



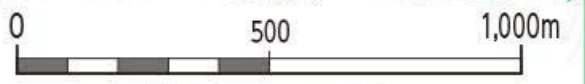


凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深	
	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満
	家屋倒壊等氾濫想定区域

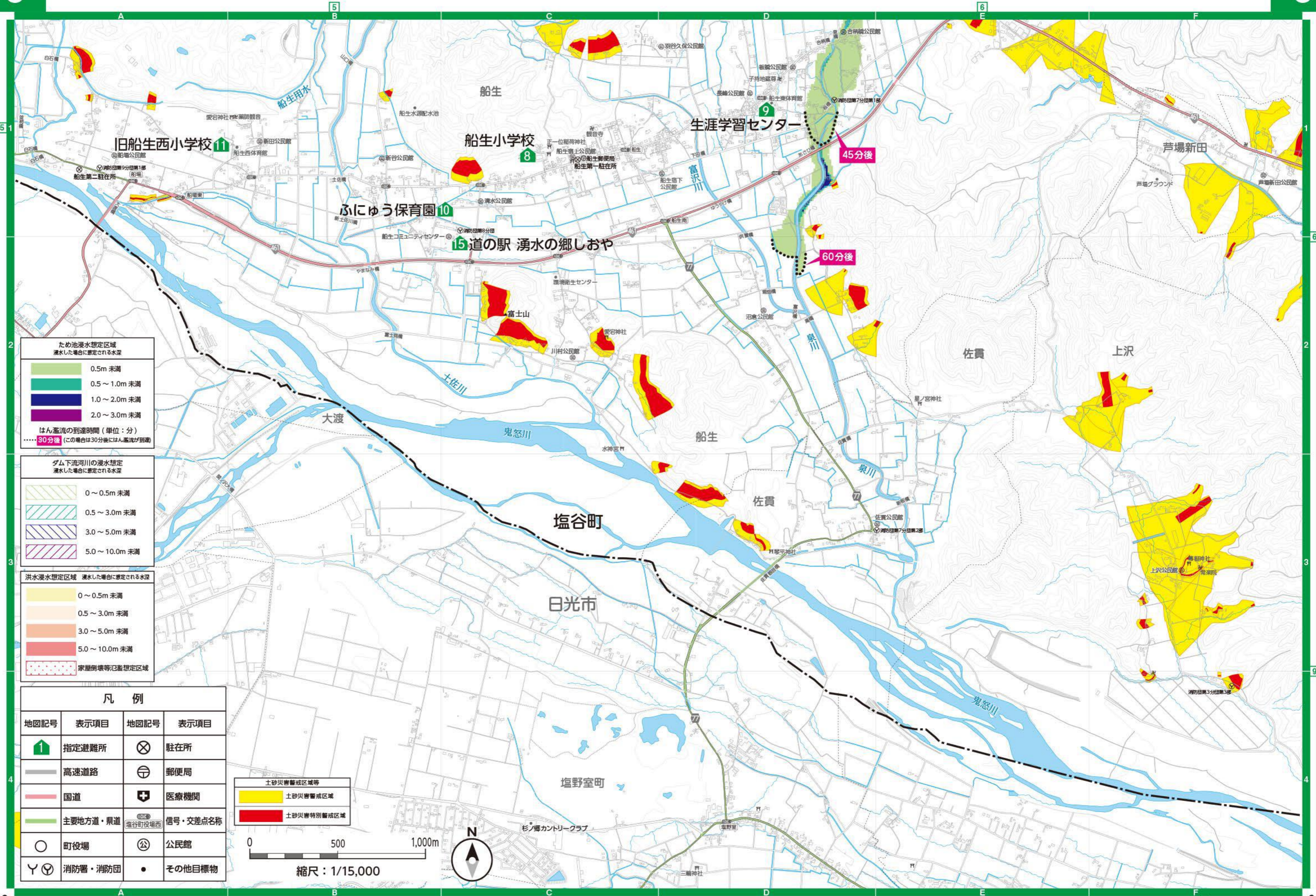
ダム下流河川の浸水想定 浸水した場合に想定される水深	
	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満

土砂災害警戒区域等	
	土砂災害警戒区域
	土砂災害特別警戒区域



縮尺：1/15,000





ため池浸水想定区域
浸水した場合に想定される水深

- 0.5m 未満
- 0.5 ~ 1.0m 未満
- 1.0 ~ 2.0m 未満
- 2.0 ~ 3.0m 未満

はん濫流の到達時間 (単位: 分)
..... 30分後 (この場合は30分後にははん濫流が到達)

ダム下流河川の浸水想定
浸水した場合に想定される水深

- 0 ~ 0.5m 未満
- 0.5 ~ 3.0m 未満
- 3.0 ~ 5.0m 未満
- 5.0 ~ 10.0m 未満

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深

- 0 ~ 0.5m 未満
- 0.5 ~ 3.0m 未満
- 3.0 ~ 5.0m 未満
- 5.0 ~ 10.0m 未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

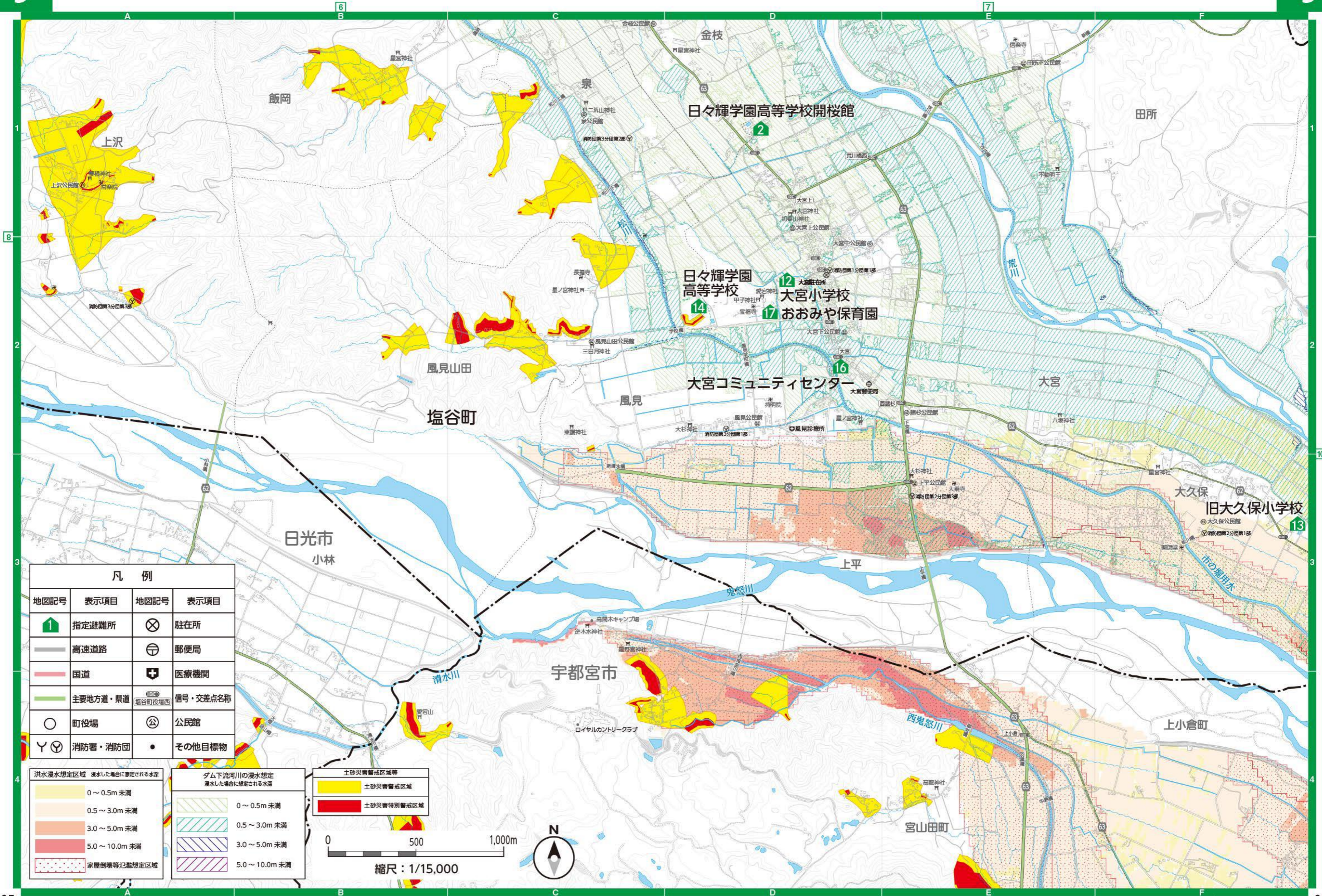
凡例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

土砂災害警戒区域等

- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

0 500 1,000m

縮尺: 1/15,000

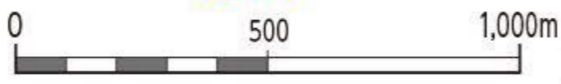


凡例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
1	指定避難所	⊗	駐在所
—	高速道路	〒	郵便局
—	国道	+	医療機関
—	主要地方道・県道	○	信号・交差点名称
○	町役場	Ⓜ	公民館
⚓	消防署・消防団	●	その他目標物

洪水浸水想定区域	浸水した場合に想定される水深
0.5m未満	0～0.5m未満
0.5～3.0m未満	0.5～3.0m未満
3.0～5.0m未満	3.0～5.0m未満
5.0～10.0m未満	5.0～10.0m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	

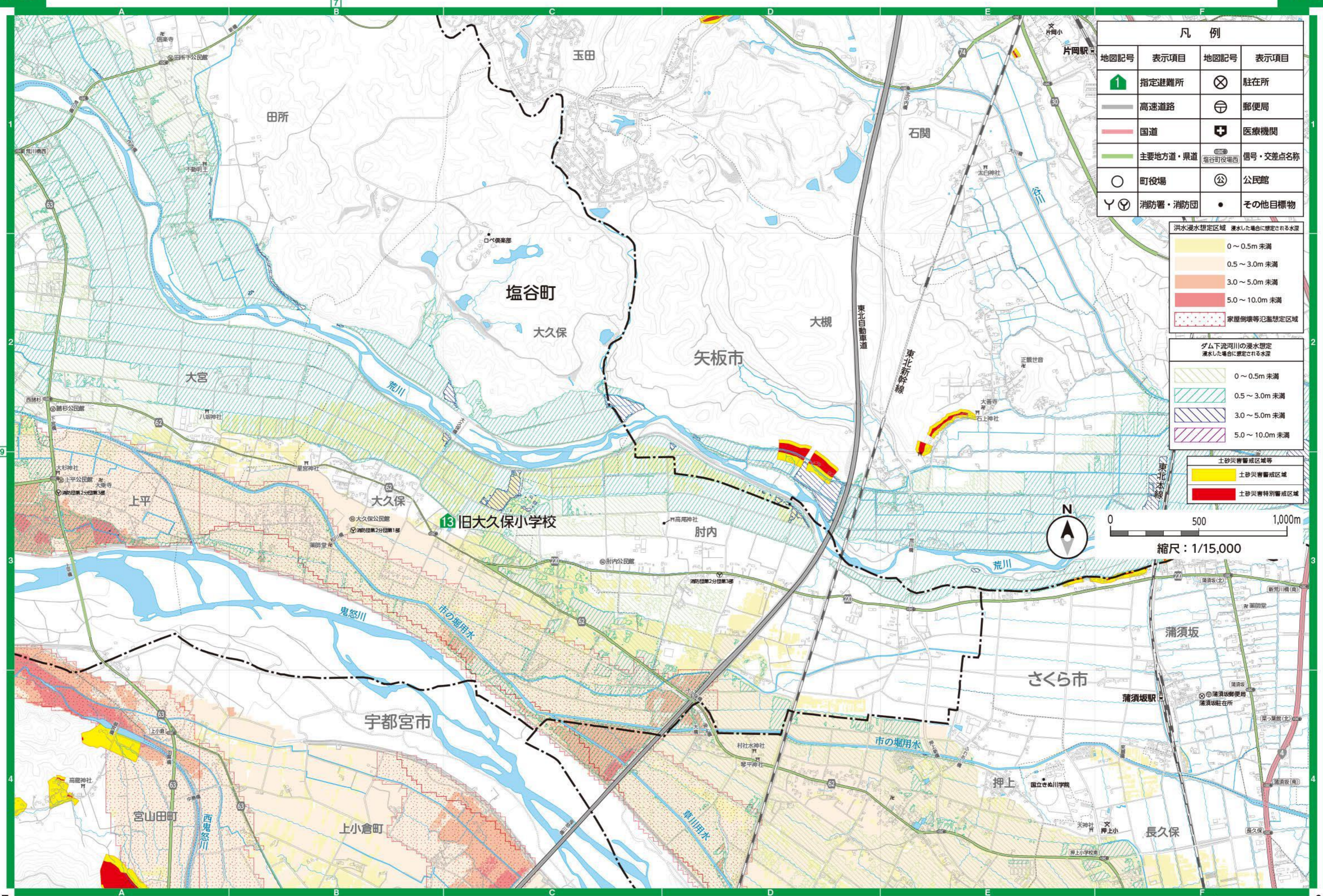
ダム下流河川の浸水想定	浸水した場合に想定される水深
0.5m未満	0～0.5m未満
0.5～3.0m未満	0.5～3.0m未満
3.0～5.0m未満	3.0～5.0m未満
5.0～10.0m未満	5.0～10.0m未満

土砂災害警戒区域等	
土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域



縮尺：1/15,000





凡例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		駐在所
	高速道路		郵便局
	国道		医療機関
	主要地方道・県道		信号・交差点名称
	町役場		公民館
	消防署・消防団		その他目標物

洪水浸水想定区域	
浸水した場合に想定される水深	表示
0~0.5m 未満	
0.5~3.0m 未満	
3.0~5.0m 未満	
5.0~10.0m 未満	
家屋倒壊等氾濫想定区域	

ダム下流河川の浸水想定	
浸水した場合に想定される水深	表示
0~0.5m 未満	
0.5~3.0m 未満	
3.0~5.0m 未満	
5.0~10.0m 未満	

土砂災害警戒区域等	
土砂災害警戒区域	表示
土砂災害警戒区域	
土砂災害特別警戒区域	

縮尺：1/15,000
0 500 1,000m



土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害が発生する割合も高くなっています。



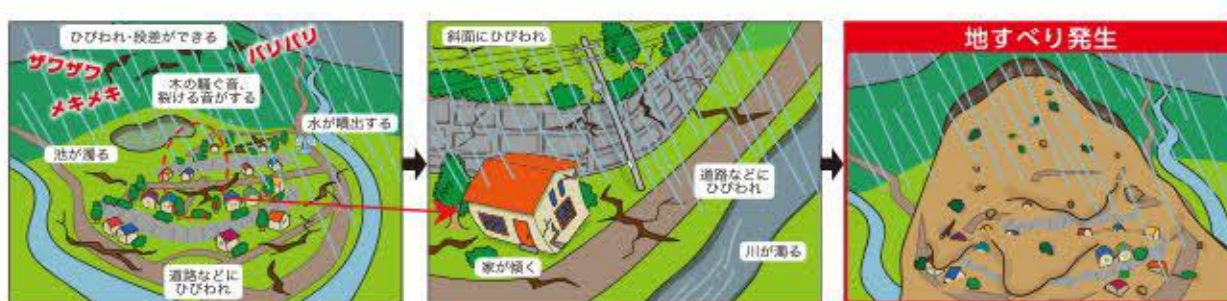
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

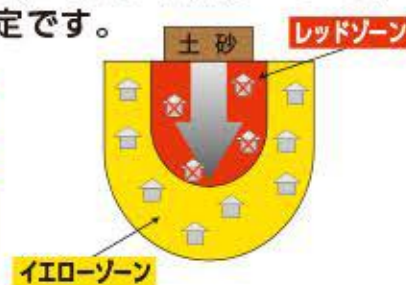
土砂災害防止法に基づき、栃木県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しを行っていく予定です。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域



土砂災害の予防策

- ◎日頃から避難する場所や道路などを確認しておきましょう。
- ◎所有地内にがけがある方は、がけの周辺を見回り、次のようなことを心がけましょう。



大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応

強風注意報・暴風警報

強風注意報:
平均風速が12m/sと予想される場合
暴風警報:
平均風速が20m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こるおそれがあると予測される場合

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、または数十年に一度の強度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

暴風特別警報

数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしものときに備えて迂回路を想定しておきましょう。

竜巻・雷に関する情報

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。直径は数十~数百メートルで、数キロメートルに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。

「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます!



屋外では

- ・頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする。
- ・物置や車庫、プレハブの中には入らない。
- ・シャッターを閉める。
- ・電柱や太い木には近づかない。

屋内では

- ・窓から離れる。
- ・窓やカーテンを閉める。
- ・丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
- ・家の1階の窓の少ない部屋に移動する。

竜巻注意情報(気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>



「雷」から身を守るには… 遠くで音がしたらすでに危険な状態です!

レーダー・ナウキャスト(降雨・雷・竜巻)

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



- ・グラウンドやゴルフ場、海の上などの開けた場所や、山頂などの高いところは危険!
- ・電柱、鉄塔などの高い物体には近づかないように!
- ・高い木の近くは危険! 2m以上は離れてください!
- ・姿勢は低く、持ち物は体より高くしないように!
- ・建物や車の中は比較的 안전한空間。
- ・木造建築物の中では、電気機器や壁から1m以上離れば更に安全。
- ・雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な場所へ移動しましょう。



地震発生

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう**
 - 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
 - 行方不明者はいないかの確認
 - ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火**
 - 消火器を使う
 - 余震に注意
 - 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める



ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食糧は蓄えているものでまかなう 最低限3日間(推奨7日間)の飲料水と食糧の備蓄しておく
- 災害・被害情報の収集
- 壊れた家に入らない
- 近くの人への救出・救護



屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかにする。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らないようにする。(ガラスの破片などでケガをする)



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

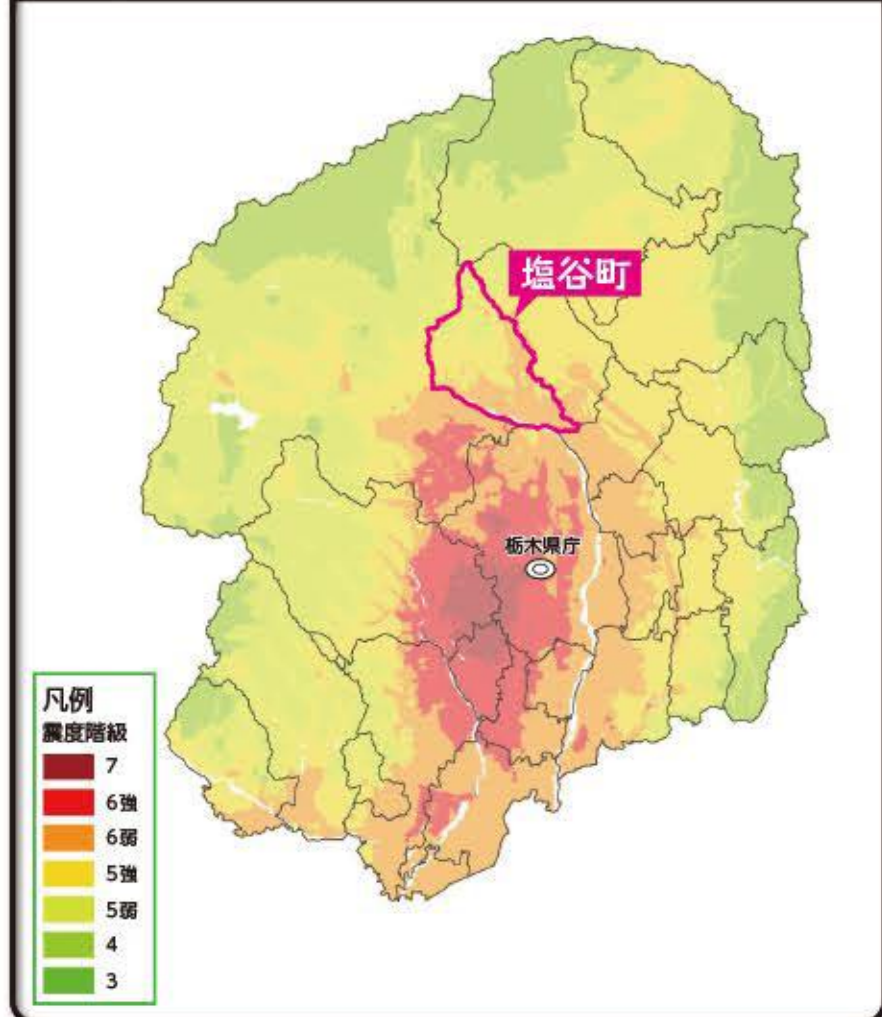
山沿い・谷沿い

- 地震により土砂災害が発生するおそれがあるため、安全な場所へ避難する。

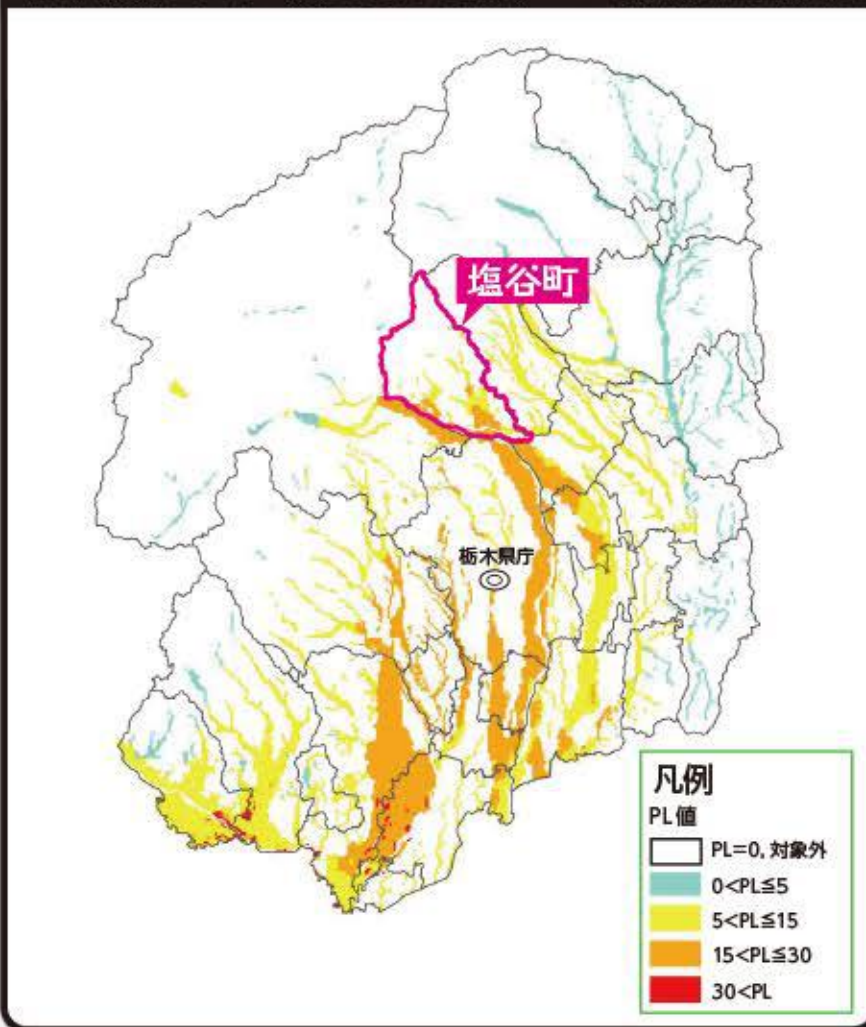
想定震源(断層の上端)の位置



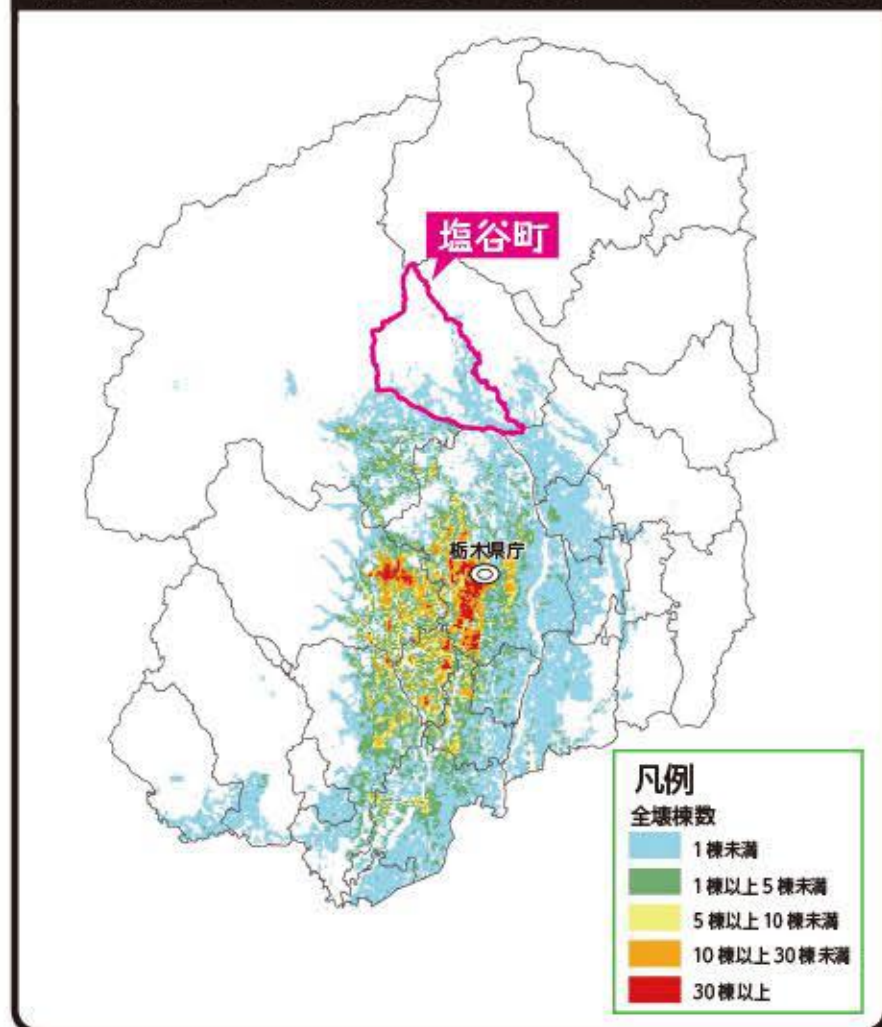
栃木県庁直下に仮定した地震(M7.3)震度分布図



栃木県庁直下に仮定した地震(M7.3)液状化危険度



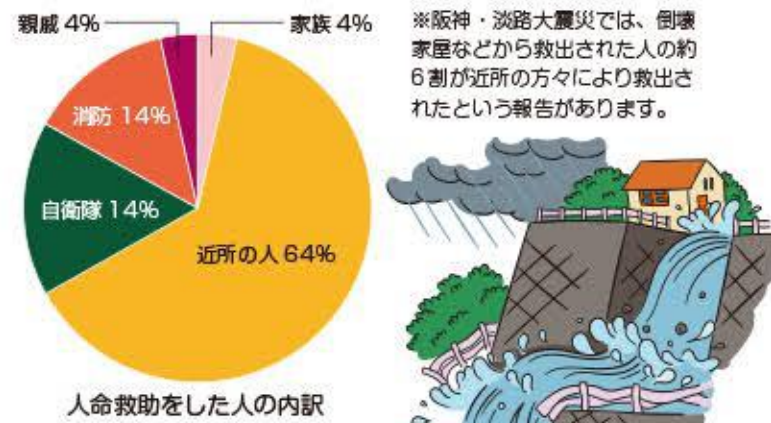
栃木県庁直下に仮定した地震(M7.3)全壊棟数



自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯感に基づき、地域の方々が自発的に、初期消火、救出・救護、集団避難、給水・給食などの防災活動を行う団体のことをいいます。

自主防災組織の必要性

大規模な災害が発生した場合には、防災関係機関の防災活動が遅れたり、阻害されることが予想されます。このような事態においては、住民の自主的な防災活動、出火防止、初期消火、被災者の救出・救護、避難などを行うことが必要です。また、これらの防災活動を行うにあたり各自がばらばらに行動するのではその効果があまり期待できません。住民が団結し、組織的に行動することによって防災活動の効果が最大限に発揮できるのです。そのためには地域または施設ごとに、地域住民または施設関係者がその実情に応じた自主的な防災組織を設け、日ごろから災害が発生した場合を想定した訓練を積み重ねておくことが重要です。



(出典) 1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5) 神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査 宮野道雄(大阪市大) 他 1996年日本建築学会大会学術講演集



※阪神・淡路大震災では、倒壊家屋などから救出された人の約6割が近所の方々により救出されたという報告があります。

行政区の自主防災機能を強化

災害が発生した時、それを防いだり被害を最小限に食い止めるためには、自分の家が無事なだけではいけません。住んでいる地域全体が守られて、はじめて自分や家族が安全になれるのです。安全・安心なまちを作るために、日ごろからコミュニティを大切に、連帯感を深めていく努力が必要です。

自分の身は自分で守る(自助)

もし、災害に直面しても、救助隊がすぐに来るとは限りません!

- 大きな災害が発生したとき、地域は次のような状況に見舞われることがあります。
 1. 道路が不通になり、防災機関の活動が困難になります。
 2. 電話・水道・電気が止まり、防災関係機関への通報や消火活動に支障をきたします。
 3. 同時に多数の場所で被害が出て、防災機関の活動が分散します。
- これらのことから各自・各家庭で災害に備えることが重要になってきます。



地域全体を守ることが自分と家族を守ることにつながる!

みんなでまちを守る(共助)

地域の防災意識が、災害時に人命を助けることにつながる。

大きな災害が発生した場合、災害対応能力が著しく低下することが予想されます。このような事態が発生した場合、地域の皆さんが協力して初期消火・被災者の救出・救護、避難誘導、避難所の運営を行うことにより地域の被害を少なくすることができます。阪神・淡路大震災では、倒壊家屋などから救出された人の6割が近所の方々から救出されたという報告があります。このことから行政区の自主防災機能を強化することの大切さが分かります。日ごろから災害に備えた防災活動を展開していきましょう。

防災活動の重要性を確認しよう



災害時は「地域の住民が互いに助け合う」= 互助の意識が重要です!

地域の防災意識が、災害時に人命を助けることにつながる。

- ・自主防災組織の活動への積極的な参加
 - ・地区防災計画の策定(※地域住民が自発的に行う防災活動に関する計画)
 - ・避難時の声かけ
- など、地域で協力しましょう。



消火器の正しい使い方



- 安全ピンを引き抜く。
- ホースの先を持って火元に向ける。
- レバーを強くにぎる。

消火訓練などに参加して日ごろから消火器の使い方を覚えておきましょう。



消火器を使用するときには、低い姿勢でほうきで掃くように使ってください。避難路を確保し、風上にまわり、炎や煙を避けるように、姿勢を低くかまえます。消火薬剤の飛距離はおおよそ3~5m。

※消火器-4型: 高さ40cmくらい。薬剤放射時間は約15秒程度です。

あなたの家お済みですか!?

「住宅用火災警報器」



消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

●家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる 出入口や通路にもものを置かない

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。



●寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。枕元には靴、懐中電灯、笛などを入れた袋を用意する。倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れる可能性があるため倒れそうな家具は置かない。



家具の転倒落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



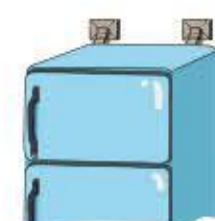
照明

天井の照明器具は、天井に直に取り付けるタイプ(シーリングライト)の器具に交換する。



冷蔵庫

ベルトなどで背面部と壁を固定する。背面上部のベルト取り付け部分と壁とをベルトで連結すると効果が高くなる。



テレビ

できるだけ低い位置に固定しておく。家具の上はさける。



家の周囲の安全対策

事前に準備できているか、チェックしましょう。

屋根

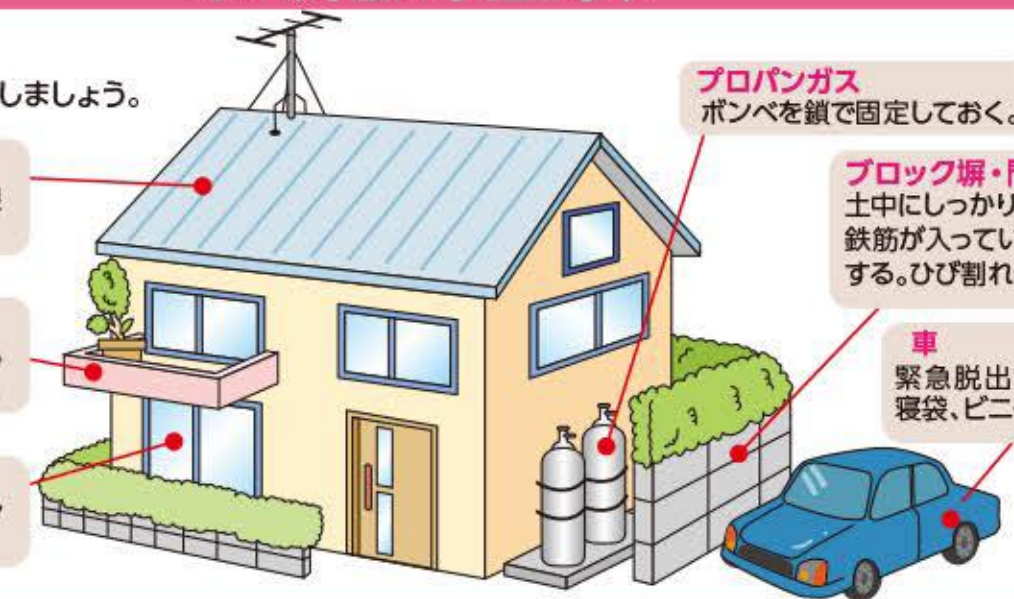
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。カーテンは防災加工のものにする。



プロパンガスボンベを鎖で固定しておく。

ブロック塀・門柱 土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

車 緊急脱出ツール、ジャッキ、テント、寝袋、ビニールシートなどを用意する。

家の耐震診断をしよう

あなたの家は、大地震の揺れに耐えられる家ですか? 以下のチェックポイントにしたがって、家の耐震診断をしてみましょう。1つでも気になる項目があれば、専門家の診断を受けてください。

- 昭和56年6月以前に建てられた家ですか?
- 過去の地震でダメージを受けたことがありますか?
- 埋立地、低湿地造成で盛り土をした場所、液状化の可能性のある土地に建っていませんか?
- 木造住宅の場合、基礎は鉄筋コンクリートで建物土台としっかり一体になっていますか?
- 凸凹の多い複雑な形状になっていたり、大きな吹き抜けがありませんか?

地震に弱い住宅を耐震化するには、建替えか耐震改修をする必要があります。また、耐震改修を行う場合は、事前に耐震診断を行いましょう。

- ①耐震診断・・・建築士に依頼し、住宅の図面と現地を調査して、どこが弱い部分なのかを確認します。
- ②耐震改修設計・・・耐震診断で住宅の弱い部分を把握したら、補強工事を行うための設計を行います。基礎や壁の補強をしたり、屋根を軽い材料に取替えるなど建築士から設計内容の説明を受けましょう。また、住宅の耐震性を強くする補強工事の他に、自分の身だけを守る「耐震シェルター」「防災ベッド」を設置するだけの簡易な改修もあります。
- ③耐震補強工事・・・建設会社や工務店に依頼して、建築士が行った設計を基に工事を行います。設計を行った建築士も工事監理者として工事に携わってもらい、設計書のとおり工事が行われているか確認してもらいましょう。